

チャプレン通信

第1号

発行日 2024年4月1日号

不定期刊

発行人

主教アンデレ大畑喜道

皆さん、光の子ども学園聖公会八王子幼稚園によろこそ。おめでとうございます。年中さんは年長さんに、年少さんはそれぞれ年中さんへと育っていきました。新しく入園された子供たちは期待と不安でドキドキかも知れません。最初はお母さんからなかなか離れないかも知れませんね。彼らの成長が楽しみです。

4月から八王子復活教会の牧師、光の子ども学園八王子幼稚園のチャプレンとして赴任いたしました。大畑喜道です。神学院を出てからずっと東京教区で働かせて頂きました。2011年に主教に叙階されて、主教巡杖などで礼拝に何度も参加しております。今回は少し私の自己紹介をさせていただきます。

私の名前は大畑喜道と言います。母方の祖父が姓名判断でいくつかの候補として決めたとも聞いています。しかしこの名前にも大きな神の計らいがあることを感じています。「喜」という字の上の部分は鼓を表すのだそうです。口と鼓で神を楽しませると言う会意文字だそうです。自分が喜ぶと言うよりも、神を喜ばせるという事が本意なのですね。「道」という字は首を携えて歩く姿を現わすのだそうで、何かおどろおどろしい感じがします。戦争に負けて敗走する姿なのか。戦さに勝って意気揚々と帰る姿なのか。よく

分からないのだそうです。私たちの日々進む道はいつも陽の当たるものでもありません。戦さに破れて深い悲しみを担ってとぼとぼと歩くこともあるでしょう。しかしその道を歩み続けて、神を賛美して口で福音を語り続けていく事が大切だ。どんなことが起こっても神を信頼して生きていきなさいと神に招かれています。

もう一つ名前があります。晴留家志んぷと名乗っています。いつかまた機会があればどうやってキリストに出会ったのかという話をしたいと思いますが。今回は高校の時から、一人の演者が沢山の聴衆を前に心を一つにさせて楽しませる落語という伝統芸能にとっても感心して、寄席にも随分と通いました。そのうちに噺家になりたいという気持ちが高まっていきました。結局は十代の夢と散りました。しかし落語を忘れることもできなく、人前で披露したくなり、教会の皆さまにはご迷惑をかけています。

妻は透析を30年以上して21年に帰天しました。最後は自宅で看取りをできたのが何よりでした。計画では「お父さん、長い間ありがとう。愛しています。」ガクツとなるはずでしたが、静かに独りで旅立っていきました。寂しくもありますが悲しくはありません。「ご苦労様、ありがとう」と送り出し

ました。子どもが三人。孫二人。和光市の自宅には次男と、ミャンマー出身のオーバーステイの方に住んで貰っています。こんな私です。よろしくお願ひします。これから皆さんと子どもたちと一緒に喜び楽しみ成長していきますましよう。

おめでとうで一言

皆さん、この春何度おめでとうと言ったでしょうか。おめでとうを漢字で書くと「お目出度う」となります。自分の思い通りの目が出て良かったねというような意味だそうです。自分の賭けた目が出て幸運だった。いつからそうなったのかは知りませんが、昔はそうではなかったようです。「愛でる」という言葉と「甚だしく」「いたし」という言葉の合成された言葉だそうです。あなたはとても愛されています。両親に、祖父母に、社会のみんなに、ことに神に愛され大切にされている存在だという意味です。あなたはとても素晴らしい大切な存在だ。私たちは神から預かった子どもたちとこんな言葉を語り掛け合いながら成長していきたいと思ひます。だれもが大切な



神は独り子を与えるほどに
私たちを愛してくださった
ヨハネ福音書 3章 16節

存在だと認め合うことはとても大切な事です。教会からのメッセージはこれにつきます。神様が一人も残らず大切にしてくださっている。あなたのこともこの子のことも。私たちは言葉に出して、「愛していますよ、大切な人です」とはなかなか言い難いものです。恥ずかしかつたり、照れくさかつたり。今はそんなことを言う親はいないと思ひますが、わたしの両親は、わたしが悪いことをすると「こんなことをするのはうちの子ではありません。どこかに捨ててきてしまうよ」と言ひました。それが恐ろしくて。実際には一度も捨てられたことはありませんが。親は本気では捨てようとは思ひませんよ。大切なあなただからと親は思ひています。もし「おめでとう、愛しているよ」と毎日、毎日言われて育つのと「捨ててしまうよ」と言ひて育てるのでは大きな違いが出てくることでしょう。愛の言葉の中に育つ子どもはきっと多くの人を愛し、大切にできるようになります。その子の日々は世界を変える力があります。世界中が平和になっていくことでしょう。心を込めて子どもにおめでとうと言ひましよう。

教会では毎週日曜日 10時30分から
礼拝を行っています。歓迎いたします。
是非お越しくください。
またキリスト教に関してのご質問が
あればいつでも質問してください。